

## シロアゴガエルとオンナダケヤモリの池間島からの記録

田中 聡\*

### New Record of *Polypedates leucomystax* and *Gehyra mutilata* from Ikemajima Island, the Miyako Islands

Satoshi TANAKA\*

#### はじめに

池間島は宮古諸島の北側に位置する面積2.83km<sup>2</sup>の小島である。島は隆起さんご礁におおわれており、中央には湿原が広がっている。1992年には宮古島との間に池間大橋がつながった。

これまで宮古諸島の両生爬虫類相については比較的研究が進んでおり、池間島からもこれまで13種が分布することがわかっている（当山、1981；饒平名ほか、1998；城間・太田、2004）。今回、これまで記録のなかったオンナダケヤモリ *Gehyra mutilata* およびシロアゴガエル *Polypedates leucomystax* を確認したので報告する。

採集した個体は10%フォルマリン固定後、70%エチルアルコールに保存した。標本の計測は、長さについてはプラスチック定規を、体重については電子天秤（タニタハンディミニ1476）を使用した。これらの標本は沖縄県立博物館（OPM）に保管されている。

なお、調査に同行された石神安弘氏、文献について協力いただいた太田英利・当山昌直両氏にお礼申し上げます。

#### シロアゴガエル *Polypedates leucomystax*

採集年月日：2006年7月10日22時28分

場所：宮古島市池間島池間集落内の道路（県道230号線）ぞい

目撃時の状況：人家脇の生け垣のブッソウゲの葉上

のとまっており、非活動状態のようにみえた（図1）。

標本番号：OPM-H-2388

体長：19mm

体重（液浸標本の表面水分除去後）：0.5g



図1 葉上で静止状態のシロアゴガエル幼体 (OPM-H-2388)

#### オンナダケヤモリ *Gehyra mutilata*

採集年月日：2006年7月10日22時05分

採集場所：宮古島市池間島集落内

目撃時の状況：集落内にある人家を取り囲むブロック塀の壁面で活動していた（図2）。壁面のその部分は外灯の光もささない暗所で、ミナミヤモリも確認した。外灯の光のあたっている場所にはホオグロヤモリが複数確認された。

標本番号：OPM-H-2342

頭胴長：53mm

\* 〒903-0823 那覇市首里大中町1-1 沖縄県立博物館  
Okinawa Prefectural Museum, 1-1, Onaka-cho, Shuri, Naha, Okinawa 903-0823, Japan

尾長：39mm

体重（液浸標本の表面水分除去後）：3.1g

性別：雌

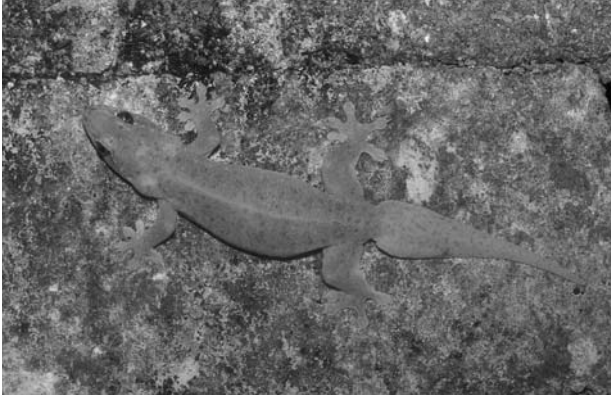


図2 人家壁面で活動していたオンナダケヤモリ (OPM-H-2342)

宮古諸島から記録されている両生類のうち、池間島からはサキシマヌマガエル *Rana* sp. とミヤコヒキガエル *Bufo gargarizans miyakonis* の2種が、爬虫類ではミナミヤモリ *Gekko hokouensis*、ホオグロヤモリ *Hemidactylus frenatus*、サキシマキノボリトカゲ *Japalura polygonata ishigakiensis*、ミヤコトカゲ *Emoia atrocostata atrocostata*、キシノウエトカゲ *Plestiodon kishinouyei*、サキシマスベトカゲ *Scincella boettgeri*、ミヤコカナヘビ *Takydromus toyamai*、ブラーミニメクラヘビ *Ramphotyphlops braminus*、サキシマアオヘビ *Cyclophiops herminae*、サキシママダラ *Dinodon rufozonatum walli*、サキシマスジオ *Elaphe taeniura schmackeri* の11種が確認されている（当山、1981；饒平名ほか、1998）。今回の確認により、池間島には両生類3種、爬虫類12種が分布することになる。

オンナダケヤモリが確認されるのは通常暗い場所である（田中、1979；Lue et al., 1987）。今回オンナダケヤモリを採集したのも人家外壁の暗い場所であったが、本種はこのような暗い場所を利用する傾向がある上、ホオグロヤモリよりも個体数が少ないため、これまで確認されなかったのだろう。

今回確認した2種のうち、シロアゴガエルは明らかかな外来種である。インド北東部から東南アジアに広域に分布する樹上性のカエルで、日本国内では

1964年に嘉手納基地付近で最初に確認された（Kuramoto, 1965）。現在は、沖縄島では低地のほぼ全域に分布を広げており（千木良、1984：当山、1984；森口、1988；本部町塩川：田中、個人観察）、周辺離島の瀬底島・屋我地島・伊計島（当山、1981）、藪地島（増永、1993）、伊平屋島・伊江島（河内、2002）、渡名喜島（Ota et al., 2004）、久米島（佐藤、2005）、宮古諸島では宮古島（Iwanaga, 1998；饒平名ほか、1998）、来間島（中田、2001）、伊良部島（吉郷ほか、1998）、多良間島（城間・太田、2004）でも定着が確認されている。今回採集した個体は幼体であり、本種がすでに池間島に定着していることを強く示唆しているが、卵・幼生や繁殖声は確認していない。春から夏の繁殖期に島中央部の湿原など、繁殖場所になりそうな水域での確認が必要である。

#### 文 献

- 千木良芳範. 1984. 沖縄島北部におけるシロアゴガエルの記録. Akamata (2):2.
- 河内紀浩. 2002. 伊平屋島と伊江島からのシロアゴガエルの新記録. Akamata (16):6.
- Iwanaga, S. 1998. *Polypedates leucomystax* (Java Whipping Frog). Herpetol. Rev., (29):107.
- Kuramoto, M. 1965. A record of *Rhacophorus leucomystax* from the Ryulyu Islands. Bull. Fukuoka Gakugei Univ., pt. 3 15:59-61.
- Lue, K.-Y., S.-H. Chen, K. Otsuka and H. Ota. 1987. Distribution of gekkonid species belonging to *Hemidactylus* and *Gehyra* (Lacertilia) in Taiwan. Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ. (Ser. Biol.), 12:113-118.
- 増永元. 1993. シロアゴガエル・ガラスヒバァ・メクラヘビの藪地島からの記録. Akamata (9):5-6.
- 森口一. 1988. 沖縄島南部におけるシロアゴガエルの記録. Akamata (5):1.
- 中田里美. 2001. 宮古の両生類と爬虫類. 下地邦輝編、『宮古島の自然と水環境』. pp. 30-45. おきなわ環境クラブ、那覇.
- Ota, H., M. Toda, G. Masunaga, A. Kikukawa and M. Toda. 2004. Feral populations of amphibians and reptiles in the Ryukyu

- Archipelago, Japan. *Global Environmental Research* 8:133-143.
- 佐藤文保. 2005.** 久米島に侵入した自然界のエイリアン（移入種）の記録. 久米島自然文化センター紀要 (5):27-35.
- 城間恒宏・太田英利. 2004.** 宮古諸島における外来性の両生・爬虫類の分布と生息状況. 平良市総合博物館紀要 (10):57-66.
- 田中聡. 1979.** オンナダケヤモリ. 千石正一編『原色両生爬虫類』p.24. 家の光協会、東京.
- 当山昌直. 1976.** 宮古群島の両生爬虫類 (I). 爬虫両棲類学雑誌, 6:64-74.
- 当山昌直. 1984.** シロアゴガエルの新しい分布地. *Akamata* (2):1.
- 当山昌直. 1985.** 琉球の両生類・爬虫類—現状と問題—. 世界野生生物基金日本委員会科学委員会(編)『南西諸島とその自然保護 そのII』. 世界野生生物基金日本委員会.
- 当山昌直. 1981.** 宮古群島の両生爬虫類. 沖生研究会誌 (14):30-39.
- 吉郷英範・田村常雄・巖道治・泉れい. 2003.** 伊良部島（琉球列島・宮古諸島）の洞穴で確認された動物. 比婆科学 (210):1-16.
- 饒平名里美・当山昌直・安川雄一郎・陳賜隆・高橋健・久貝勝盛. 1998.** 宮古諸島における陸棲爬虫両生類の分布について. 平良市総合博物館紀要 (5):23-38.

